

西南戦争遺跡めぐりin山鹿市 ~当日資料「山鹿口の戦いの錦絵」~

→「鹿兒嶋戦記」

早川松山 3月12日届出

詩書(説明文)には、2月22・23日から山鹿口の戦いが始まり、政府軍「頗る勝利」とある。

戦闘開始日は実際(2月26日)とは異なる。錦絵にはこうした誤報が多い。



※色違いの錦絵

錦絵の彩色は一杯目(1坏の摺り数は約200枚)では絵師が指定したが、二杯目以降の「後摺」では摺師の裁量に任されていた。

そのため、同じ作品でも部分的に色が異なるものがあり、西南戦争の錦絵には多くみられる。それほど売れたのである。



→「鹿兒島征討記内

熊本城ヨリ諸所戦争圖

大蘇芳年 3月16日届出

約1ヶ月に及ぶ山鹿口の戦いのうち、最も激しかった3月12日の第3次戦を描いた作。

届出日は戦いから4日後。

錦絵は当時の新聞報道の視覚情報不足を補うメディアでもあり、速報性が求められた。



←「鹿兒嶋新聞  
山鹿口戦之圖」

安達銀光 3月26日届出

薩摩軍の将、前原一格は錦絵に度々登場するが、架空の人物である。

萩の乱の首魁として処刑された前原一誠の末弟で、乱の後は潜伏し、薩摩軍に加わったという設定となっている。

政府への不満、士族への同情の念が生んだキャラクターといえる。



←「鹿児島新聞  
賊兵激戦之圖」  
山崎年信 4月5日届出

山鹿には力士湊山の墓はあるが、西京力士朝男山等が薩摩軍に加わったという明確な記録は無い。

ただし、熊本城下の力士熊山喜太郎や吉田司家23世善門等が薩摩軍に参戦した事実はある。

当時、政府の一部にあった相撲廃止論に対する反発があったのであろう。



→「鹿児島新聞  
山鹿戦争之圖」  
安達銀光 4月5日届出

本頁の上2点は、絵師も版元も異なるが、届出日・画題は同じ、構図もほぼ共通する。

銀光と年信は同じ歌川派の絵師であり、あるいは情報の共有があったとも考えられる。

年信の師、大蘇芳年作に同じ構図がある。面白い場面は何度も描かれるのだ。



←「山鹿口激戦の圖」  
永島孟斎 4月届出

政府軍先鋒は警視抜刀隊。3月14日の二俣口の戦いが初戦、翌15日の横平山の戦いで大きな戦果をあげる。

ただし、山鹿口の戦いに参戦したという正式記録は無い。



→「鹿児島新聞  
車坂戦之圖」  
安達銀光 5月8日届出

4月9日付の東京曙新聞、植木の戦いで桐野利秋と野津鎮雄少将との一騎打ちが報じられ、これを受けた作とみられる。

詩書（説明文）には、「白刃閃かし…互いに火花を散らし戦いし」と、講談調で読者を引き込む表現が凝らされている。

なお、野津が山鹿口の戦いを指揮したという正式記録は無い。

